

72
まいん



製錬



環境
自然



伊庭貞剛



鈴木
馬左也



塩野
門之助

しさがしまだいえんとつ

四阪島大煙突



現在の四阪島

しさがしまだいえんとつ
四阪島大煙突は、大正
13年(1924)10月に建設されました。鉄筋コン
クリート製で高さ71.5メートル、直径8メー
トルもあります。

現在の大煙突は二代目となり、一代目は明治
37年に建設され、高さは64メートル、頂上の内
径は4.39メートルでした。しかし、大きなゆが
みが生じ、崩壊する危険性が出てきたため、二代
目が建設されました。

大煙突の横には試験塔も残っています。大煙突内からガスを抜いて分析を行ったり、風向きによりガスが流れて行く方向を確認して知らせたりしていました。

新居浜での煙害問題を解決するために、別子支配人伊庭貞剛は無人島であった四阪島を明治28年(1895)に個人名義で購入し、塩野門之助に調達・設計を命じ、当時の年間純利益の二倍近くを投資して製錬所が明治37年完成しました。

しかし、煙害は東予一円に拡大する結果となってしまいました。

明治42年(1909)、総理事鈴木馬左也は住友と煙害被害者代表による会議の席で、「(煙突の)除外方法が発明されれば、たとえ煙害に対する損害を弁償する額以上であっても、これを支出して施設する覚悟である。」と決意を述べました。

大正3年(1914)10月10日に六本煙突が建設され、煙突の高さを低くして数を増やすことで、海上で煙を薄め拡散させようとした。高さは30メートルでした。しかし、皮肉なことにかえって亜硫酸ガスの濃度が高くなり被害が増し、大正6年10月に六本煙突の使用は停止となりました。



六本煙突

大正3年撮影 別子銅山記念館所蔵



大傾斜軌道

日本初!

公害克服の島
四阪島

先人の様々な努力の中、昭和4年(1929)ペテルゼン式硫酸工場が完成し、鉱石中の硫黄の70パーセントを硫酸に転化するという世界で初めての施設が完成しました。

さらに昭和14年、近代技術を結集した中和工場により、遂に同年7月3日13時15分煙突の硫煙が止まり、40年近くに及ぶ煙害問題を克服しました。

四阪島大煙突は日本で初めて公害を克服したシンボルであり、また、瀬戸内海を行く船舶のランドマークタワーとして、80年の時を越え、先人の偉業をたたえるかのよう^{いざよう}に天高くそびえています。



四阪島へは関係者以外は立ち入ることができません。

